



かつて三村家があったとされる、秋月さん宅の敷地の一角

四賢婦人の母・鶴子の話を教えてくれた森田悦雄さん



つくりしていきなっせ」と言うなりそそくさとテレビの前へ。どうやら、大リーグの大谷選手が出演している試合が気になるようです。

四賢婦人の母、鶴子の古里

益城出身で日本の女子教育に尽力した矢嶋楯子を始め、竹崎順子、徳富久子、横井つせ子の四賢婦人を生み育てた母・鶴子の生家、三村家は櫛島地区にありました。

鶴子の父は、筑後地方から櫛島に移り住んだ武士・秋月伝右衛門の息子の和兵衛。和兵衛は後に下六嘉・上六嘉・櫛島の3つの村を治める庄屋となり、これにより初代・三村の姓を名乗ります。鶴子は幼い頃から藩校の時習館で学んだ兄の章太郎の影響を受け、才色兼備な女性だったといわれています。「三村家は鶴子が嫁いだ杉堂の矢嶋家より格が上でした。鶴子の

娘たちが残した功績は素晴らしいものですが、母親の教育が礎となっているのは間違いありません」と話すのは、櫛島地区の区長で四賢婦人記念館でガイドを務めている森田悦雄さんです。

明治になると三村家は熊本市中央区本荘に移り屋敷を構えました。三村家の本家の流れをくむ秋月家の子孫は今も櫛島地区に暮らし、現在の敷地内の一角に三村家があったと伝えられています。

プールの清掃物語

櫛島地区に美しい地下水をたたえたプールがあります。昔から夏ともなると地区の子どもたちはここで、水遊びを楽しんできました。

プールを管理しているのは「櫛島子ども会」です。各地域の子ども会は小学生と保護者で構成されていますが、櫛島地区には小学生が1人しかいません。そこで去る7月15日に、「東無田子ども会」や地区の中学生が声掛けをした益城中バレーボール部の仲間、サッカーチーム、2年連続で参加しているトレイルランチーム、それに大人も含めて総勢90人が集まりプールの清掃が行われたそうです。翌日の16日は水神祭、夜には水あかり



プールに映る夕日が美しい(古荘さん提供写真)

散歩の終わりに

今回で2度目の東無田・櫛島地区のわがまち散歩。前回の散歩で顔見知りになった人たちとのうれしい再会や、新しい発見、歴史に触れた時間でした。

セミの声がやんだ夕刻。青田を渡る風に吹かれると、少しずつ秋が近づいている気がします。今日の出会いに感謝。

西に沈もうとする夕日が空を紫に染め、風がプールの水面に幾重にも弧を描く光景は涼しさを呼び込みます。

などのイベントも開催されました。「櫛島に住む小学生1人のために90人が集まってくれました。みんな汗を流しながらプールを清掃する時間は楽しかったです」と話すのは、「櫛島を愛してやまない」と言う古荘直樹さんです。ただしプールの利用は地区の子どもに限り、遊泳については保護者の監視の下での自己責任となっているそうです。



仲間たちが集まりプールの清掃が行われました(古荘さん提供写真)